

滋賀の子どもが一人ももれなく輝く社会

～滋賀の縁創造実践センターがめざす豊かな滋賀の姿～



「みんなが仲良く助け
合えることって、とても
いいなと思ってこの絵
を描きました」
(藤居紗来さん)

平成28年2月3日

滋賀の縁創造実践センター 谷口郁美
(事務局：滋賀県社会福祉協議会)

滋賀の縁創造実践センター設立の趣意

～「おめでとう」から「ありがとう」まで、一人ひとりだれもが大事にされる福祉滋賀～

糸賀一雄生誕100年の年、平成26年9月に設立 5年間のプロジェクト

- 2025年問題といわれる少子高齢化への不安と共に、**重なり合う生活課題を抱えながら支援につながらない人々、ニーズに対応したサービスがないなど制度のはざまにあるため支援が得られない人々等、社会的孤立や生活困窮の問題が広がっています。**
- 私たち滋賀の民間福祉関係者は、この問題を見過さず、**滋賀に暮らす一人ひとりだれもが、「おめでとう」と誕生を祝福され、「ありがとう」と看取られるまで、ふだんのくらしのしあわせ（ふくし）が保障される社会を創りたいと考えます。**
- このことを自らの実践により実現しようと、民間福祉関係者が分野や立場を越えてつながり、地域住民と共に、社会とつながっていない人々の縁を紡ぎなおし、生き生きと地域のなかで暮らせるよう支援するしくみと実践を県下にくまなくつくっていくための推進母体として、「滋賀の縁創造実践センター」を設立しました。

滋賀の縁創造実践センターの目標と活動

～「おめでとう」から「ありがとう」まで、一人ひとりだれもが大事にされる福祉滋賀～

縁センターがめざすもの

- ①トータルサポートの福祉システム化
- ②制度の充実と制度外サービスへの取り組み推進
- ③縁・支えあいの県民運動

活動内容

- ①制度で対応できないニーズに対する支援の開発と実践
- ②県内各地で相談・生活支援に取り組む支援者の支援
- ③県内各地域におけるトータルサポートのための協働のしくみづくり・トータルサポートの好事例の普遍化

5年間の目標

- ①縁・共生の場づくり(300か所)
- ②課題解決のためのネットワークづくり(15か所)
- ③制度のはざまとなっている課題へのモデル事業(15事業)
- ④国や県、市町への施策提案(20の提案)
- ⑤新たに福祉のボランティア体験をする人(1万人)

滋賀の縁創造実践センターの会員の状況

(平成28年1月20日現在)

1 会員数

(1) 団体会員数 19

(2) 法人会員数 192 ※法人会員には、団体の会員法人(民間)をすべて含んでいます。

(3) 個人会員 15人

(4) 賛助会員 6

2 基金造成額(平成27年3月31日現在) 96, 917, 628円

団体会員一覧

県老人福祉施設協議会	県手をつなぐ育成会	県民生委員児童委員協議会連合会
県保育協議会	県身体障害者福祉協会	県障害者自立支援協議会
県児童福祉入所施設協議会	県視覚障害者福祉協会	県市町社会福祉協議会会長会
県社会福祉士会	県母子福祉のぞみ会	県社会福祉法人経営者協議会
県介護福祉士会	県里親連合会	県介護サービス事業者協議会連合会
県介護支援専門員連絡協議会	県老人クラブ連合会	県民間社会福祉事業職員共済会
医療福祉・在宅看取りの地域創造会議		

“おめでとうから ありがとうまで ” 公私協働の福祉しが 連携協定

平成26年4月16日締結(準備会)、平成26年11月10日締結(設立後)

連携事項

- ①縁センターが設置する企画会議への県関係職員の参画
- ②トータルサポートのためのプラットフォームづくり
- ③様々な福祉課題を持つ世帯を包括的、継続的に支援する取組み
- ④様々な縁を紡ぎなおし、地域で暮らすことを支える仕組みづくり
- ⑤トータルサポートを暮らしの場で実感できる居場所づくりを県民運動としてひろげていくための活動
- ⑥制度の狭間や制度外にあるサービスの制度化・普遍化に向けた協議
- ⑦制度の充実に向けた協議

2 県と縁センターは、現場の実践から明らかになった福祉課題の共有と課題解決に向けての意見交換会を原則として年2回実施する。

3 県は縁センターの円滑な事業実施および運営の基盤づくりに対する全庁横断的支援に努めるものとする



「子どもの笑顔を育むコミュニティづくり」をとおした 豊かな滋賀の創造

～「おめでとう」から「ありがとう」まで、一人ひとりだれもが大事にされる福祉滋賀～

- 縁センターでは、少子高齢化とともに人口減少を迎えるなか、子どもの貧困対策が豊かな滋賀づくりの肝であるとの認識のもと、
- 滋賀の子どもが、一人ももれなく「ふくし」(ふだんのくらしのしあわせ)を保障される社会をつくっていこうと、心が動いた人たちが地域内で協力・協働の関係をつくり、「遊べる学べる淡海子ども食堂」やフリースペース等の地域で子どもを支える・育む実践の一步を踏み出している。

縁の実践をふまえた県への政策提案 「子どもの笑顔を育むコミュニティづくりをととした豊かな滋賀の創造」

縁センターの問題意識

- 少子化、人口減少社会のなかで、私たちは社会の担い手をどう育てていくのか。
- 「ひとりももれなく、人間として生まれてきた生きがいを豊かに感じられるような世の中をつくらねばならない」(糸賀)・・・滋賀の子どもが一人ももれなく笑顔になれるコミュニティづくりを公私協働、全員参加型ですすめていきたい。そしてこの取り組みを通じて地域住民の連帯感を紡いでいきたい。



「おめでとう」から「ありがとう」まで、
一人ひとり、だれもが大事にされる地域づくり



だれもが
集える場

遊べる・学べる淡海子ども食堂
地域ぐるみで子どもを大事にする垣根のない居場所

小学生

中学生

高校生

若者

40代～

一人ひとりの課題
に応じた
支援

福祉施設を活用した
子どもの居場所
フリースペース

児童養護施設、里親のもとで
暮らす子どもの自立支援
〈自立への土台づくり〉

ひきこもりの人への訪問型支援・
居場所づくり



「子どもの貧困」の実態を聴くことから始まった

スクールソーシャルワーカーや保育士、家庭児童相談室の相談員から聴く

- 長期休みになると体重が減ってしまう子ども
- 昼は弁当がないので、教室から出て外をぶらぶらしている子ども
- 白ごはんには塩が毎日の晩ごはん
- 白菜と昆布だけの鍋を家族4人がつついている
- 学校の夏服が買えない子ども
- リコーダーや水着はきょうだいでも共有。授業が重なり忘れ物になって注意されるから学校に行きづらい子ども
- 集合写真や校外学習の集金、部活の交通費 等々・・・家にそんな余裕ないことを子ども自身がわかっているのがまんしている子ども
- 小さい子どもの世話があるので学校に行けない。勉強どころではない子ども
- ゴミのなかで家族と暮らしている子ども
- 高校に行けることになったが家計苦しくて通学の交通費どころではない子ども

貧困、孤立、虐待のなかで子ども時代を過ごしている子どもがいるという事実。一人の大人として放っておけないと強く感じた。

子どもの貧困にどう立ち向かうか ～目の前にいる一人の子どものことを大事にすることから

- 教育・食・居場所の確保
- 経済的支援
- 相談しやすい場所
- 人のあたたかさに触れる体験が大切
- 親への批判や非難は、困っている家庭をさらに孤立させてしまう。

**信頼できるおとなにつながったとき、
子どもの未来が大きく変わる。**

制度だけでは子どもを支えられない

子どもの貧困対策における子どもへの支援(現在の主な制度や施策)

①経済的支援

- ・生活保護、児童扶養手当、就学援助
- ・修学資金貸付

②学習支援

- ・学力向上のための学習支援
- ・生活困窮者支援制度における子どもの学習支援
- ・ひとり親家庭の子どもの学習支援

③居場所づくり

- ・児童館(廃止されつつある)

学校教育の役割
生涯学習の役割
生活困窮者支援の役割
ひとり親家庭支援の役割
児童虐待対策の役割

支援者同士が信頼し合い、通じ合うことが、子どもを守り、支えるために欠かせない

不公平さを気にせず、支えを必要とする子どもが求めることに応えられる柔軟な取組みが隙間をうめる



地域のなかで愛情いっぱい声をかけてくれる大人が、子どもの心をほぐす

教育や指導ではなく、子どもにとってふつうであたりまえの時間と空間をつくってあげたい子どもたちがいる

縁センター会員によるモデル事業の立ち上げ

福祉施設を活用した、不登校等しんどさを抱える子どもの居場所「フリースペース」

- ①縁センターの居場所づくり小委員会で企画立案
- ②老人ホーム等は24時間人がいて、温かいごはんがあって、風呂がある。送迎もできる。この特徴を生かして、ここを必要としている人の居場所をつくろう
- ③実際に夜の居場所を必要としている子どもの存在を、スクールソーシャルワーカーや保育士、相談員の話聴いて実感
- ④子ども支援が本業ではないなかで不安はあるが、学校や相談機関と連携して居場所づくりができるのであれば、地域の子どものためにやっこ

スクールソーシャルワーカーがつなぎ目になり、教育と福祉、行政と民間が協働する滋賀オリジナルのモデル事業がはじまった



この居場所につなぎたい子どもは、県内どの市町、地域にもいる。モデル事業をたたき台にして、普遍化＝施策化をめざしたい。

民間の柔軟さ、即応性が生きる、滋賀ならではの
公私協働モデルに！

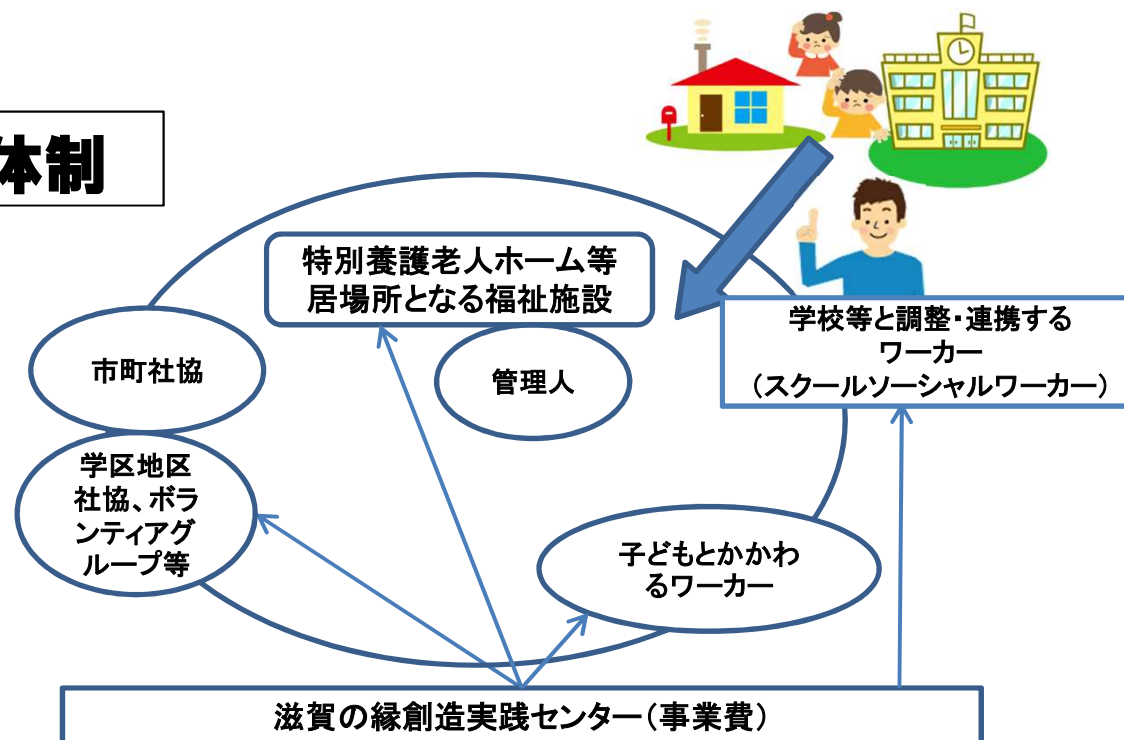
福祉施設を活用した、不登校等しんどさを抱える子どもの居場所「フリースペース」

- 対象 校区内の小学生を中心に
- 開催日 週1回
- 時間帯 概ね午後6時～9時
- 食事代 100円

スクールソーシャルワーカーが調整役となり、学校や家庭児童相談室と支援世帯の相談を行い、保護者に利用をすすめる。
★県教委の「特別派遣枠」＋縁センター

フリースペース 実施体制

社会福祉施設には、24時間必ず人がいる、ご飯がある、お風呂がある。送迎もできる。子どもや親を孤立させないために、すでにある地域の資源や人がチームとなり地域の居場所づくりに取り組みます。



フリースペース カーサⅠ（大津市）
特別養護老人ホームカーサ月の輪 地域交流スペース

- ◆2015. 3. 31より毎週火曜日17:30～21:00
- ◆小学校6年生の男の子が参加
- ◆当初未就業の保護者も一緒に参加し、社協の相談窓口を通して就労につながった。
- ◆ボランティアには大学生だけでなく、大津市社協のトワイライトステイでサポートを受けてきた若者が携わっている。

フリースペース かなで（大津市）
小規模多機能事業所 時間の奏

- ◆2015. 7. 31より毎週金曜日17:00～20:00
- ◆小学校2年生男の子、4才の女の子のきょうだいが参加

フリースペース せせらぎ（甲賀市）
特別養護老人ホームせせらぎ苑 ケアハウス棟

- ◆2015. 9. 29より毎週火曜日17:30～20:45
- ◆小学校3年生の男の子、小学2年、1年の女の子のきょうだいが参加
- ◆施設は、ソーシャルワーカー2名を担当配置

フリースペース カーサⅡ（大津市）
特別養護老人ホームカーサ月の輪 デイスペース

- ◆2015. 5. 26より毎週火曜日17:30～21:00
- ◆中学校2年生、小学校5年生、4年生、2年生、4才の女の子のきょうだいが参加



フリースペース アイリス（大津市）1月28日プレ
特別養護老人ホーム近江舞子しょうぶ苑

フリースペース ひこね ふるさと（彦根市）
障害者支援施設ふるさと 2月3日プレ

フリースペース ふじのさと（高島市）
特別養護老人ホームふじの里

遊べる・学べる淡海子ども食堂

- 縁センターがめざす「おめでとう」(誕生)から「ありがとう」(看取り)まで、一人ひとりだれもが大事にされる地域づくりのリーディングプロジェクトとしてスタート
- 小学校の数だけつくっていいこうと、平成27年の夏からモデル事業への参加呼びかけ
- この営みをとおして、地域連帯感を育みたい

27年度の目標
14か所

■食材は？

購入も必要だけど、地域の人や事業所にも協力よびかけてみる...

■調理は？

以前は、給食ボランティアやサロンでごはんを作るの楽しかったなあ...

■食費は？

来てほしいと思う子どもが来れるようにしよう...

■いろんな人がお手伝いできる
全員参加型の場になるとよいなあ

あたたかい
ごはんがある

安心できる
大人と出会
える

ふつうの
だんらん
がある

さびしい思いをしている高
齢者も、若者もここでは
ひとりじゃない「みんなの
食堂」がいいなあ

■場所は？

集会所、福祉施設、民家等、子どもたちが徒歩や自転車で行ける範囲

■運営は？

地域の住民組織、ボランティアグループ、福祉施設、まちづくりにかかわる団体など、それぞれのところにあわせた協力体制をつくる

初度経費を含
む立ち上げ支
援助成

学生(大学生
や高校生)のボ
ランティア等呼
びかけ



滋賀の緑創造実践センター リーディングプロジェクト

地域に子ども食堂をつくらう!

～ 子どもたち一人ひとりが大事にされる居場所 ～

「遊べる・学べる淡海子ども食堂」は・・・
 “ごはん”を通じて、さみしさやしんどさを抱える子どもたちを地域で見守り、育てていく、地域ぐるみで子どもを大事にする垣根のない居場所をつくっていく事業であり、困っている人を放っておかない地域をつくっていくための事業です。

ごはんを食べたり、宿題をしたり、本を読んだり、遊びを通して、子どもが大人に大事にされる場所を、緑センター会員と地域の方たちの思いと工夫でつくっていきましょう!




子どもの笑顔を育む緑ネットをつくっていきましょう

「うちの地域でやってみよう!」という団体やグループを募集します!

■実施団体 ⇒ 緑センター団体会員、法人会員および団体会員、法人会員が推薦する団体、グループ

■活動の支援
 モデル事業の運営への助言や支援を行い、必要に応じて立ち上げ等にかかる経費の助成を行います。

- ・初度経費等の助成 初年度20万円、2年目10万円、3年目10万円(3年まで)
- ・運営への助言、支援、学習会等の開催等

どこで、どんなことができるかな?
 つくりかたは、皆さんの工夫次第!

平野
子ども食堂
のぞみ

~みんなでわいわいクッキング~

月 日 ()

: ~ :

場 所: 平野市民センター

持ち物: 宿題、お茶

参加費: 無料

対象者: ひとり親家庭

申込み: ☎ まで

主催 大津市平野学区母子福祉のぞみ会 / 共催 大津市社会福祉協議会

みんなと一緒に
たのしいな~♪

みんなでいろんな事にチャレンジ!!

料理 宿題 などなど

ご参加をお待ちしています

郷賢の緑創造実践センター
「遊べる・学べる読書子ども食堂」モデル事業



にぎわい広場 カトレア

「こども食堂を開きます！」

大人の方も
歓迎♪

平成28年1月30日(土) 開店

月に一回、みんなで一緒にカレーを食べてワイワイしませんか？
お友達を誘って遊びに来てください♪

日時 : 毎月一回 月末 土曜日



受付 11:30~

閉店 13:00

※申込み不要(◎先着順 無くなり次第終了)

参加費 : 大人 200円
: 中学生以下 無料

※アレルギー対応はしていません



場所 : 石部南まちづくりセンター
1階 調理・研修室

問い合わせ: 石部南学区まちづくり協議会
(石部南まちづくりセンター内)
TEL: 0748-77-2535





フリースペースや子ども食堂の活動に 取り組む人たちの思い

- 地域にさびしさやしんどさを抱えている子どもたちがいるのならば、私たちもできることで子どもを支えていきたい。
- 特別な子どもというレッテルを貼らずに、ふつうのことをしていきたい。
- 課題となっているのは、困っている子どもとのつながり方
- 学校の先生方も、気楽に、地域でつくる子どもを大事にする居場所「子ども食堂」にごはんを食べにきてもらえたらうれしい。
- そして、気になっている子どもに声をかけてもらえたらと思う。
- ときどきは、学校の先生方や福祉の相談員の方たちと、子どもの様子について話せる機会があると、やりがいがある。
- 自分たちがやろうと決めたことなので責任もって続けていくけれど、県や市町みんなですべてやろうというバックアップが励ましになる。

滋賀の人々のこころの豊かさで、滋賀ならではの 三方よしの福祉文化をつくりたい

- 私たちは、すべての子どもが生まれ育った環境に左右されることなく自分の将来に夢と希望が持てる社会をつくっていきたいと、「遊べる・学べる淡海子ども食堂」と名付けた地域ぐるみの活動をはじめました。
- 「淡海子ども食堂」は子どもが安心できる大人と出会い、おなか一杯ごはんを食べて、宿題をしたり遊んだり、安心して過ごせる地域の居場所です。そしてここでは、働く世代も、高齢者世代も、子ども世代も皆が活動の主役です。
- この活動を通して、地域のなかでは見えにくい「子どもの貧困」をみんなの問題として考えられる地域に、さびしさやしんどさを抱える人々を見逃さず、さびしさやしんどさを笑顔に変え、笑顔を育む地域をつくりたいと願っています。
- 人を大事に、支え合う、滋賀ならではの三方よしの福祉文化をここから！

ひとりももれなく、
子どもが笑顔になる
おとなも笑顔になる
地域が笑顔になる

一人を大事にする、全員参加型、公私協働のシステム。新しい福祉文化の創造は、集まって、ハラゴシラエして、一緒にやってみることから。